

ジャックが幸運をみつけに行くはなし

昔むかし、あるところに、ジャックという男の子がいました。

ある朝、ジャックは、幸運をさがしに出かけました。たいして行かないうちに、ねこに会いました。

「どこ行くの。ジャック」と、ねこはいました。

「幸運をさがしに行くんだ」

「いっしょに行ってもいい？」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

それで、ジャックとねこは、とつとつ、とつとつ歩いていきました。

すこし行くと、犬に会いました。

「どこ行くの。ジャック」と、犬はいました。

「幸運をさがしに行くんだ」

「いっしょに行ってもいい？」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

それで、ジャックとねこ犬は、とつとつ、とつとつ歩いていきました。

すこし行くと、やぎに会いました。

「どこ行くの。ジャック」

「幸運をさがしに行くんだ」

「いっしょに行ってもいい？」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

ジャックとねこ犬とやぎは、とつとつ、とつとつ歩いていきました。

すこし行くと、牡牛おしに会いました。

「どこ行くの。ジャック」

「幸運をさがしに行くんだ」

「いっしょに行ってもいい？」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

ジャックとねこ犬とやぎと牡牛は、とつとつ、とつとつ歩いていきました。

すこし行くと、おんどりに会いました。

「どこ行くの。ジャック」

「幸運をさがしに行くんだ」

「いっしょに行ってもいい？」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

ジャックとねこと犬とやぎと牡牛とおんどりは、とつとこ、とつとこ、とつとこ、とつとこ歩いていきました。

歩いていくうちに暗くなってきました。どこかに泊まらなくてはなりません。するとそのとき、家が一軒見えました。ジャックは、みんなを待たせておいて、家のそばまで行き、こっそり窓からのぞいてみました。家の中では、どろぼうたちがお金を数えていました。ジャックはもどってきて、みんなにいいました。

「こつちへおいで。ぼくが合図したら、みんなでいっせいに、思いっきりさわぎたてるんだ」

ジャックが、「準備はいいかい」ときくと、みんなは、「準備できたよ」と答えました。

ジャックは合図しました。すると、ねこはミャオウ、犬はウワン、ウワン、やぎはベエー、牡牛はウンモー、おんどりはコケッコーと鳴きました。おっそろしく大きな声で鳴きました。

どろぼうたちはびっくりして逃げていきました。みんなは中に入って行って、その家で暮らすことにしました。

けれどもジャックは、夜中になつたらどろぼうたちが戻ってくるんじゃないかと思いました。そこで、寝る前に、ねこを揺り椅子に寝かせ、犬はテーブルの下に寝かせ、やぎは二階に、牡牛は地下蔵に、おんどりは屋根の上に寝かせました。それからベッドに入りました。

さて、どろぼうたちは、なんとかしてお金を取りかえそうと、あたりがまっくらになるのを待って、仲間のひとりや二人を家にさぐりに戻らせました。

ところがしばらくすると、さぐりに行った男があわてふためき、まっさおになって帰ってきました。



「おれ、家に入って、揺り椅子すわに座ろうとしたんだ。そしたら、そこではあさんが編あみ物ものをしててさ、針はりでおれをさしやがった」

これは、もちろん、ねこでした。

「それで、お金をさがそうとテーブルのどこに行ったら、テーブルの下に靴屋くつやが隠かくれてキリでおれをさしやがった」

これは、もちろん、犬でした。

「それで、二階だいにが上がってたら、男おとこが脱穀だつこくしてて穀竿からざおでおれをなぐりたおしやがった」
これは、もちろん、やぎでした。

「それで、地下蔵ちかざんに下りてったら、木を切っている男おのがいて斧おのでぶんなぐりやがった」
これは、もちろん、牡牛おしうでした。

「ああ、でも、家のてっぺんにいたあのちっちゃなやつのおそろしいことといったら。そいつ、『こっちにやつを投げあげろー、こっちにやつを投げあげろー』ってさげびやがるんだ」

もちろん、それは、おんどりでした。

おしまい

原話：『English Fairy Tales』JOSEPH JACOBS

再話：村上郁